

2022年のできごと

1月4日 企画展「第25回全国児童生徒地 図優秀作品展」を開催

地図と測量の科学館ほか3会場において、企画展「第25回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。本企画展は、全国各地で開催されている児童生徒の地図に関する作品展から選ばれた優秀作品を展示するもので、87作品を展示した。また、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式を1月12日に国土交通省で実施した。

1月15日 道の駅「能登食祭市場」で地図パ ネル展を開催

北陸地方測量部は、石川県七尾市街地周辺の過去と現在の地図や空中写真をはじめ、自然災害伝承碑の取組など地図や測量に関連するパネルの展示を行った。

1月17日 「GNSS 利活用と災害リスク削 減に関する地理空間能力開発会 議」を開催

GNSS 利活用と災害リスク削減分野における地理空間情報の専門性を生かした能力開発を通じたSDGs への貢献のため、UN-GGIM WG Disasters, UN-GGIM-AP 及び国土地理院の共催により GNSS 利活用と災害リスク削減に関する地理空間能力開発会議（Geospatial Capacity Development Conference on GNSS Applications and DRR）をオンライン方式により開催した。87の国と国連機関から511名の参加登録があり、会期中4日間に会議へ接続した参加者は410名であった。

1月24日 令和4年1月22日1時8分の日 向灘の地震に伴う地殻変動

1月22日1時8分に日向灘で発生した地震（M6.6、深さ45km、最大震度5強）に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

1月22日 第13回地理空間情報に関する北 海道地区産学官懇談会を開催

北海道地方測量部は、「第13回地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会」をオンライン形式で開催した。本懇談会では「防災と教育」をテーマとして、「防災・地理教育支援の取組」について報告するとともに、地理空間情報（GIS）を取り入れた地図教育のあり方などについて意見交換を行った。

1月31日 令和3年度中部地区産学官連携 協議会会合

中部地区の産学官の関係者から構成される中部地区産学官連携協議会は、対面及びオンラインで構成員28名による会合を行い、三次元点群や三次元地図等に関する議題について意見交換及び情報共有を行った。

2月1日 「国家座標の認証に係る指針」を 公開

国家座標の認証に求められる要件を取りまとめ、その必要性に関する解説と併せて策定した「国家座標の認証に係る指針」を公表した。

2月2日 磁気図「2020.0年値」を公表

登山などの際に方位磁石から地図の北を得るために必要となる、方位磁石の北と地図の北とのずれの角度の情報等を表現した「磁気図2020.0年値」を公表した。

2月4日 「地理空間情報活用推進に関す る大分地区産学官連携セミナー」 及び「令和3年度地理空間情報 活用推進に関する九州地区産学 官連携協議会」を開催

九州地方測量部は、地理空間情報活用推進基本法に基づき、九州地区における国、地方公共団体、関係事業者及び大学等研究機関の相互連携による、地理空間情報の効果的な活用を推進するため、大分地区産学官連携セミナー及び九州地区産学官連携協議会を開催した。地理空間情報活用推進基本計画と取り巻く状況についての講演とともに、防災や減災をテーマとした大分県の産学官による地理空間情報活用事例を紹介し、地理空間情報の高度活用社会と課題について議論を行った。

2月9日 「地理空間情報活用推進に関す る近畿地区産学官連携協議会第 8回総会」を開催

近畿地方測量部は、地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会第8回総会をオンライン形式で開催した。各機関からの地理空間情報関連の取組報告について、意見交換や情報共有が行われた。

2月18日 令和3年度国土地理院総合評価委員会を開催

Web 会議形式で令和3年度国土地理院総合評価委員会を開催した。本会議では、令和3年度における測量業務の総合評価落札方式による実施状況及び令和4年度における測量業務の入札・契約手続の実施方針（案）について審議が行われた。

2月24日 地理空間情報活用推進に関する東北地区産学官連携協議会を開催

東北地方測量部は、「令和3年度第2回東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会」を開催した。協議会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策の観点から WEB と対面のハイブリット形式で開催した。活動方針の審議や国土地理院による講演、外部機関からの取組の紹介がされた。意見交換においては人材育成に関する報告等を踏まえ課題認識の共有化が図られた。

2月24日 第19回北海道測量技術講演会を ～3月8日 開催

北海道地方測量部は、(公社)日本測量協会北海道支部と共催で、測量の日記念行事として、オンライン（オンデマンド形式）で第19回北海道測量技術講演会を開催した。本講演会は、「高さに関する測量の最新技術の動向」をテーマとし、国土地理院職員から3次元点群データ試行整備の状況や北海道地域でも進められている航空重力測量を紹介したほか、(一財)北海道産学官研究フォーラム産学官 CIM・GIS 研究会の零石和利氏から静岡県熱海市で発生した土砂災害発生時の解析例など3次元点群データの BIM・CIM の現場での利活用事例と人材育成の課題等を紹介いただいた。

2月25日 第234回地震予知連絡会を開催

第234回地震予知連絡会が Web 会議形式にて開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、その後、重点検討課題として「スロー地震の理解の現状」に関する報告・議論が行われた。

3月8日 地名集日本 GAZETTEER OF JAPAN を更新

国際連合地名標準化会議の決議に基づき、我が国の行政、居住、自然、海底地形等の標準化された地名情報を総合的にまとめた「地名集日本」を更新し、公表した。

3月9日 第27回測量行政懇談会を開催

第27回測量行政懇談会（委員長：浅見泰司 東京大学大学院教授）を WEB 会議形式で開催した。本懇談会では、次期「基本測量に関する長期計画」の策定に向けた検討を開始するにあたり、測量行政が今後長期的に取り組むべき事項等について議論された。

3月15日 令和3年度国土地理院コンプライアンス・アドバイザー委員会を開催

国土地理院本院において、令和3年度国土地理院コンプライアンス・アドバイザー委員会を開催した。本委員会では、令和3年度国土地理院コンプライアンス報告書(案)及び令和4年度国土地理院コンプライアンス推進計画(案)について、報告及び審議が行われた。

3月15日 「測量・地図百五十年史」を刊行

国土地理院とその関係団体で設置した「近代測量150年記念事業推進会議」（事務局：国土地理院）が、記念事業の一つとして「測量・地図百五十年史」を編纂・刊行した。

3月17日 令和4年（2022年）3月16日 23時36分の福島県沖の地震に伴う地殻変動

3月16日23時36分に福島県沖で発生した地震（M7.4、深さ57km、最大震度6強）に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

3月18日 地理空間情報活用推進基本計画が閣議決定

「地理空間情報活用推進基本計画（第4期）」が閣議決定された。本計画に基づき、地理空間情報のポテンシャルを最大限に活用した多様なサービス創出・提供に向けて更なる取組を実施し、地理空間情報が高度に利活用される世界最高水準の「地理空間情報高度活用社会」（G空間社会）の実現を目指す。

3月22日 ウェブ地図「地理院地図」に新機能（湖沼の水深、湖底標高の表示）を追加

「湖沼データ」を表示させると湖沼内の任意の場所の湖水深や湖底の標高を確認できる新機能を、「地理院地図」に追加した。

3月23日 **企画展「緯度経度 世界共通の正確な「ものさし」へー世界測地系導入から20年ー」を開催**
～6月26日

地図と測量の科学館において、企画展「緯度経度世界共通の正確な「ものさし」へー世界測地系導入から20年ー」を開催した。緯度・経度の基準の変遷や、なぜ世界測地系を導入することになったのか？世界測地系の導入後、私たちの生活にどのような影響があったのか？今後、技術がさらに進歩すると私たちと位置情報に関する未来はどうなっていくのか？など、パネル・地図・模型等を使ってわかりやすく展示・紹介した。

3月23日 **令和4年1月1日時点の全国都道府県市区町村別の面積を公表**

日本の国土の面積をとりまとめた「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」（1月1日時点）を公表した。

3月28日 **ベクトルタイル「地形分類」について、『広域版』及び『地域版』を公開**

地理院地図から公開済みのベクトルタイル「地形分類」について、主要な平野部のデータである『詳細版』に加え、『広域版』及び『地域版』を公開した。このデータにより、全国の主要な土地の成り立ちと自然災害リスクについて、地図上をワンクリックすることで確認できるようになった。

4月1日 **一等水準点「交無号」標石、東京都中央区民文化財に登録**

一等水準点「交無号」の標石が、日本水準原点の標高を定める際の出発点であるという測量技術史上の重要な役割と、現在に至るまで一等水準点として使用され続けているという役割を、あわせ持つ貴重なものであるという理由から、東京都中央区民文化財に登録された。

4月8日 **令和4年2月頃から4月にかけての沖縄本島北西沖の地震活動に伴う地殻変動**

2月頃から4月にかけて沖縄本島北西沖で発生した地震活動（最大地震3月17日20時33分、M5.9）に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

4月28日 **香川県立高松南高等学校で「測量・地図学習会」を開催**

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として高松南高等学校環境科学科2・3年生37名を対象に香川県測量設計業協会と協力して「測量・地図

学習会」を実施した。

四国地方測量部は講義「国土地理院の仕事・役割」を担当し、香川県測量設計業協会はGNSSによる測量体験を行った。

5月8日 **第54回ISO/TC211総会に出席～5月13日**

オーストリア・ウィーン及びWeb会議の併用（ハイブリッド形式）で開催された国際標準化機構の地理情報専門委員会（ISO/TC211）第54回総会に、国土地理院から日本代表団として笹川情報システム課長他1名がオンラインで出席した。

5月15日 **令和4年測量士・測量士補試験を実施**

全国14箇所の試験地（19会場）において、令和4年測量士・測量士補試験を実施した。受験者は、測量士3,194名、測量士補12,556名であった。令和3年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じ試験を実施した。

5月16日 **第235回地震予知連絡会を開催**

第235回地震予知連絡会が国土地理院関東地方測量部においてWeb会議併用形式で開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、その後、重点検討課題として「東北日本日本海側の地殻活動」に関する報告・議論が行われた。

5月25日 **日本水準原点を一般公開**

関東地方測量部は、3年ぶりに、我が国の土地の高さの基準となっている日本水準原点の一般公開を開催した。水準原点標庫の開放や水準測量に関するパネル展示のほか、電子基準点「東京千代田」の紹介を行った。

6月1日 **愛媛県立東予高等学校で「測量・地図学習会」を開催**

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として東予高等学校建設工学科2年生14名を対象に愛媛県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。

四国地方測量部は講義「地理院地図で捉える地域のすがた」を担当し、愛媛県測量設計業協会は、地上レーザスキャナやUAV搭載型レーザスキャナを使用した測量体験を行った。

**6月1日、第51回国土地理院報告会を開催
6月5日
～6月30日**

日経ホール（東京都千代田区）において第51回国土地理院報告会を開催した。また、6月8日（水）から6月30日（木）の期間で、講演をオンデマンド配信した。国土地理院からの報告のほか、地理空間情報ライターの遠藤宏之氏から特別講演いただいた。本報告会には125名（会場）、719名（オンデマンド）の参加があった。

**6月1日 「くらしと測量・地図展」を開催
～6月3日**

関東地方測量部は、「測量の日」東京地区実行委員会の事務局として、新宿駅西口広場イベントコーナー（東京都新宿区）において、「くらしと測量・地図展」を開催した。「地図と写真で見る江戸・東京200年」をテーマに、パネル展示や伊能忠敬特設コーナー、動画上映コーナーを設置し、測量に関する普及・啓発を行った。

6月3日 「測量の日」記念フェア2022を開催

近畿地方測量部は、（一社）大阪府測量設計業協会及び大阪土地家屋調査士会と共に、大阪合同庁舎第4号館（大阪府大阪市）において、「測量の日」記念フェア2022を開催した。本記念フェアでは、第24回近畿地方測量技術発表会及び測量機器・システム展（動画上映）が行われ、124名の参加があった。

**6月3日 令和4年度「測量の日」における
6月8日 功労者感謝状の贈呈**

測量・地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的として、測量・地図に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人2名、2団体の方々に関東地方測量部及び近畿地方測量部において感謝状を贈呈した。

**6月4日 第34回「測量の日」記念 地図
と測量のミニフェスタを開催**

東北地方測量部は、スリーエム仙台市科学館（宮城県仙台市）において、第34回「測量の日」記念地図と測量のミニフェスタを開催し、測量・地図に関するパネル展示、地図教室や様々な測量体験等を実施した。

**6月5日 「測量の日」特別企画 ～楽しく
学ぶ地図と測量2022～を開催**

新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るた

め、従前から地図と測量の科学館で開催してきた体験イベントにかえ、「楽しく学ぶ地図と測量2022」と題し、測量体験イベント「GPSで地上絵を描こう！」を事前申込制により開催した。

6月7日 「測量の日」講演会

「測量の日」中部地区連絡協議会と中部地方測量部は、2022年度「測量の日」記念行事として「測量の日」講演会を、ウイंक愛知（愛知県産業労働センター）及びオンライン併用にて開催した。国土地理院からの講演のほか、産学の講師から防災と地理空間情報に関する講演をいただいた。本講演会には約180名の参加があった。

**6月7日 徳島県立徳島科学技術高等学校
で「測量・地図学習会」を開催**

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として徳島科学技術高等学校環境土木コース2年生23名を対象に徳島県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。

四国地方測量部は講義「国土地理院の仕事・役割」を担当し、徳島県測量設計業協会はドローン、自動追尾トータルステーションなどの最新測量機器・技術を用いた測量体験を行った。

**6月8日 「測量の日」パネル展を開催
～6月20日**

沖縄支所は、「測量の日」沖縄県実行委員会と共に沖縄県立図書館（沖縄県那覇市）において、「測量の日」パネル展を開催した。

**6月10日 高知県立高知農業高等学校で「測
量・地図学習会」を開催**

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として高知農業高等学校環境土木科2年生17名を対象に高知県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。

四国地方測量部は講義「国土地理院の仕事・役割」を担当し、高知県測量設計業協会はドローン、地上レーザスキャナ計測などの最新測量機器・技術を用いた測量体験を行った。

**6月27日 先行公開！衛星画像から一目で
わかる大地の動き**

測量の基準（国家座標）の維持管理や地盤沈下調査等に活用するため全国の干渉SAR時系列解析を進めており、解析が完了した北海道地域の結果を先行して公開した。

6月27日 第25回中国地区測量技術講演会を開催

中国地方測量部は、「測量の日」中国地区連絡協議会共に広島県民文化センター（広島市中区）において、第25回中国地区測量技術講演会を開催した。山口大学大学院創成科学研究科長井正彦教授から特別講演をいただいた。本公演会には171名の参加があった。

6月28日 令和4年度「測量の日」記念講演会を開催

九州地方測量部は、「測量の日」関連行事の一環として、「測量の日」の普及啓発、測量技術の向上等を目的に、国・地方公共団体、九州各県測協会員、測量会社、測量専門学校等を対象に、令和4年度「測量の日」記念講演会を6月28日に、（一社）福岡県測量設計コンサルタンツ協会と共催で開催した。

6月30日 令和4年4月1日時点の全国都道府県市区町村別の面積を公表

日本の国土の面積をとりまとめた「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」（4月1日時点）を公表した。

7月5日 令和4年測量士・測量士補試験の合格者を発表

令和4年測量士・測量士補試験の合格者を発表した。合格者は、測量士460名、測量士補5,540名、合格率は、測量士14.4%、測量士補44.1%であった。

7月14日 石川県能登地方で地殻変動観測を強化～可搬型GNSS連続観測装置（REGMOS）を設置～

石川県能登地方に可搬型GNSS連続観測装置（REGMOS）を新たに設置し、地殻変動観測を強化した。

7月20日 企画展「地図記号わくわく大図鑑～9月25日 2022」を開催

私たちのまわりにある土地や建物がどんな地図記号で表現されているか？どうしてこんな地図記号になったのか？昔の地図記号は現在と違うのか？外国の地図記号はどうなっているのか？など、地図記号の種類や由来、変遷やトピックスなどを、さまざまな地図、現地の写真、記号になった実物なども紹介しながら展示した。

7月28日 令和4年度国土地理院入札監視委員会総会及び定例会議を開催

関東地方測量部において、令和4年度国土地理院入札監視委員会総会及び定例会議を開催した。総会では、委員会の運営に関する説明及び委員長・委員長代理の選出等が行われ、委員長に小口高委員、委員長代理に新谷昌人委員が選出された。定例会議では、国土地理院が発注した令和3年4月1日から令和4年3月31日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から、委員会が抽出した事案についての審議が行われた。

8月1日～8月5日 地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UN-GGIM）第12回会合に出席

国連本部（米国・ニューヨーク）で開催された地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UN-GGIM）第12回会合に、日本政府代表として国土地理院からは大木参事官他2名が出席した。本会合では、国連経済社会理事会（ECOSOC）決議を受け今後の対応についての議論等が行われたほか、WG Disastersの共同議長を務める大木参事官が議題12の導入ステートメントを行った。また、会期中にWG Disastersによる2つのサイドイベントを主催した。

8月11日 「地図と防災パネル展」

北陸地方測量部は、富山県広域消防防災センター（富山県富山市）において開催された「ジュニア防災フェスティバル」に参加した。「地図と防災パネル展」と題し、地理院地図、国土地理院の災害対応、自然災害伝承碑の取組などを紹介するパネルの展示等を行った。来場者は約1,800名で2019年の1,186名を上回り過去最高となった。

8月17日 「まるごと体験！あきたのジオパーク」で自然災害伝承碑関連パネル展示などを実施

東北地方測量部は、秋田県ジオパーク連絡協議会主催で秋田拠点センターアルヴェで開催された「まるごと体験！あきたのジオパーク」において、一般の来場者向けに自然災害伝承碑の取組に関するパネル展示及び地理院地図のコンテンツについて説明した。

8月19日 令和4年8月11日の上川地方北部の地震に伴う地殻変動

8月11日に上川地方北部で発生した地震（最大地震M5.4、深さ5km、最大震度5強）に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

8月29日 第236回地震予知連絡会を開催

第236回地震予知連絡会が国土地理院関東地方測量部においてWeb会議併用形式にて開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告が行われ、その後、重点検討課題として「光ファイバーセンシング技術の地震・測地学への応用」に関する報告・議論が行われた。

9月7日 徳島県阿波市立柿原小学校で「測量・地図学習会」を開催

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として柿原小学校4年生8名を対象に徳島県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。四国地方測量部は講義「地図と私たち」と校内に設置した電子基準点の見学・説明を担当し、徳島県測量設計業協会は投げたボールの飛距離を歩測で測り、測量機器を使って自分が求めた距離の確認を行うなどの測量体験を行った。

9月9日 第一管区海上保安本部開催「水路～9月21日 記念日パネル展」に参加

北海道地方測量部は、第一管区海上保安本部海洋情報部主催の「水路記念日パネル展」に参加した。余市宇宙記念館(9/9開催)及び小樽市総合博物館(9/12-21開催)でのパネル展において、各会場周辺の年代別地図や空中写真による地域変化の様子、国土地理院が行っている宇宙技術を応用した測量、地理院地図、自然災害伝承碑の取組などをパネルで紹介した。

9月13日 令和4年度地理空間情報の活用に関する香川地域連携協議会を開催

四国地方測量部は、「地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに、産(香川県測量設計業協会)、学(香川大学)、官(高松市)から測量・GISに関する技術動向や地理空間情報を用いた最近の取組に関する報告をしていただき、活用事例や課題について意見交換を行った。

9月15日 令和5年測量士・測量士補試験審査委員会を開催

令和5年測量士・測量士補試験審査委員会(委員長:堤盛人筑波大学教授)を国土地理院関東地方測量部にて開催した。本委員会では、令和4年測量士・測量士補試験実施結果を報告、令和5年測量士・測量士補試験実施計画及び令和5年測量士・測量士補試験問題作成方針を審議、決定した。

9月20日 愛媛県松山市立三津浜小学校で「測量・地図学習会」を開催

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として三津浜小学校4年生19名を対象に愛媛県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。

四国地方測量部は、講義「地図と私たち」と校内に設置した水準点の見学・説明を担当し、愛媛県測量設計業協会は投げたボールの飛距離を歩測で測り、実際の距離との差を確認する測量体験を行った。

9月26日 令和4年度 地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議(全体会議)

北陸地方測量部は、「令和4年度 地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議(全体会議)」をオンラインで開催した。国土地理院からは第4期地理空間情報活用推進基本計画の概要についての説明、外部機関からは地理空間情報を活用した研究・取組について講演がされた。また、北陸地方における三次元データの利活用の状況や課題について活発な意見交換がされた。

9月27日 UJNR 地震調査専門部会第13～9月29日 回日米合同部会へ参加

UJNR 地震調査専門部会は、地震調査・観測に関する最新の研究成果や将来の計画に関する情報交換・協議を通じ地震被害の軽減に資することを目的として日米交互に開催され、日本側事務局は国土地理院、米国側事務局は米国地質調査所(USGS)が担当している。2018年までは隔年で開催していたが、新型コロナウイルスの影響により4年ぶりの開催となった。会議では、日米の地震政策・プロジェクト、スロースリップ、火山と関連した地震活動・津波、地震・津波早期警戒情報、地震学における機械学習の活用など、幅広い話題が取り上げられ、今後日米で協力して実施すべき研究について取りまとめた決議を採択した。

9月27日 地図展2022「新潟市へ新潟市から」を開催

北陸地方測量部は、地図展推進協議会と共催で、地図展2022「新潟市へ新潟市から」を新潟県民会館(新潟市)において開催した。国土地理院が2022年7月に撮影した新潟市中心部の空中写真(1/3,000)や新潟市を中心に明治から現在までの地図の変遷、新潟市内の自然災害伝承碑などに関する展示を行った。

9月29日 自然災害伝承碑を追加公開

自然災害伝承碑 113 基の追加公開により、合計の掲載数は 1,500 基を一気に超えて 1,611 基となった。

9月29日 六日町断層帯とその周辺「栃尾」など 8 面の活断層図を公開

平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災を契機に、政府の地震調査研究推進施策の一環として、全国の主要な活断層帯を対象に、活断層の詳細な位置や関連する地形の分布等の情報を整備し、「1:25,000 活断層図」として公開した。

9月30日 令和 4 年 7 月 1 日時点の全国都道府県市区町村別の面積を公表

日本の国土の面積をとりまとめた「令和 4 年全国都道府県市区町村別面積調」（7 月 1 日時点）を公表した。

10月4日 高知県梶原町立梶原小学校で「測量・地図学習会」を開催

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として梶原小学校 4 年生 24 名を対象に高知県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。四国地方測量部は、講義「地図と私たち」と校内に設置した電子基準点の見学・説明を担当し、高知県測量設計業協会は投げたボールの飛距離を歩測で測り、実際の距離との差を確認する測量体験を行った。また、測量機器を使った観測体験やドローンの飛行デモンストラレーションも行った。

10月13日 「関西 G 空間フォーラム 2022」を開催

近畿地方測量部は、地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会の活動の一環として、大阪工業大学梅田キャンパス（大阪府大阪市）で関西 G 空間フォーラム 2022 を共催した。本フォーラムでは、「社会課題の解決と豊かな暮らしをめざして」をテーマに、第 41 回測量技術講演会、第 23 回関西地域 GIS 自治体意見交流会、合同パネルディスカッション及び地理空間情報関連の機器・システム等の展示会が行われ、236 名の参加があった。

10月13日 香川県宇多津町立宇多津北小学校で「測量・地図学習会」を開催

四国地方測量部は、「測量の日」関連行事として宇多津北小学校 4 年生 83 名を対象に香川県測量設計業協会と協力して「測量・地図学習会」を実施した。

四国地方測量部は、講義「地図と私たち」と校内に設置した水準点の説明を担当し、香川県測量設計業協会は投げたボールの飛距離を歩測で測り、実際の距離との差を確認する測量体験を行った。

10月14日 浜中町との協力協定締結

国土地理院と北海道浜中町は、互いが保有する地理空間情報の活用及び情報、技術等の提供を通して、住民の利便性の向上や災害対応等において迅速かつ効果的な防災及び減災の推進を図るため「地理空間情報の活用促進のための協力に関する協定」を締結した。

10月18日 令和 4 年度地理空間情報の活用に関する徳島地域連携協議会を開催

四国地方測量部は、「地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに、産（徳島県測量設計業協会）、学（徳島大学）から測量・GIS に関する技術動向や地理空間情報を用いた最近の取組に関する報告をしていただき、活用事例や課題について意見交換を行った。

10月18日 企画展「地図に残る河川改修」を～12月18日 開催

地図と測量の科学館において、企画展「地図に残る河川改修」を開催した。「河川改修」に焦点を当て異なる年代の地図を展示することで、生活する人々のくらしや地域の発展に貢献した全国各地の主な河川の改修の変遷や、その土地の成り立ちなどもわかりやすく紹介した。また、特別展示として、関東地方整備局利根川上流河川事務所の協力の下、渡良瀬遊水地の遊水地概成 100 年に関する展示と、北陸地方整備局信濃川河川事務所・信濃川下流河川事務所の協力の下、信濃川の大河津分水通水 100 周年及び関屋分水通水 50 周年に関する展示も同時に行った。

10月19日 教科書・教材出版社を対象とした「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」を開催

平成 31 年 3 月に測量行政懇談会地理教育支援検討部会がまとめた「地理を通じて自然災害から身を守るために-災害を知り災害に備えるための地理教育-」の報告書に基づき、教科書・教材出版社を対象とした「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」を開催した。

10月20日 福井県越前市立花筐小学校で「地図教室と測量体験」を開催

北陸地方測量部は、「測量の日」関連行事として越前市立花筐（かきょう）小学校の5年生32名、6年生22名を対象に、（一社）福井県測量設計業協会と協力して「地図教室と測量体験」を実施した。地図教室では、小学校周辺の地形図等を表示し、地図表示のルール、地図記号の変遷や地図記号のクイズ等を交えながら説明を行い、新しい地図記号である自然災害伝承碑についても説明を行った。

10月23日 令和4年度香川県総合防災訓練でパネル展示

四国地方測量部は令和4年度香川県総合防災訓練において、国土地理院の災害への取組、地理院地図や自然災害伝承碑の紹介、高松市のデジタル標高地形図等のパネル展示や南海トラフを含む四国地方の陰影段彩余色立体図の床展示、プロジェクトを用いて地理院地図で利用できる防災地理情報のデモンストレーション等を行い、香川県知事をはじめ、多くの訓練参加者や見学者の方々にご覧いただいた。

10月28日 第28回技術交流会を開催

中国地方測量部は、海上保安庁第六管区海上保安本部海洋情報部と広島港湾合同庁舎（広島市南区）において第28回技術交流会を開催し、測量技術にかかる報告及び意見交換を行った。

11月2日 関西G空間フォーラム in 奈良を開催

近畿地方測量部は、地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会の活動の一環として、奈良公園バスターミナル（奈良県奈良市）で関西G空間フォーラム in 奈良を共催した。本フォーラムでは、「地理空間情報で紐解く古都奈良の姿」をテーマに講演会及び及び地理空間情報関連の機器・システム等の展示会が行われ、144名の参加があった。

11月8日 第43回石川県高等学校測量技術コンテストへ参加

石川県高等学校測量技術教育研究会主催の「第43回石川県高等学校測量技術コンテスト」が金沢市の「栗崎やすらぎの林ふれあいゴルフ広場」において開催され、北陸地方測量部は審査員として参加した。石川県内で測量を学ぶ5高校から10チームが参加し、水準測量の技術を競った。最優秀賞は金沢市立工業高校Aチームで、同チームに北陸地方測量部長賞を贈呈した。

11月8日 令和4年度補正予算の政府案が決定

令和4年度補正予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院関係の予算案額は、総額46.3億円となった。

11月9日 令和4年度地理空間情報の活用に関する愛媛地域連携協議会を開催

四国地方測量部は、「地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに、産（愛媛県測量設計業協会）、学（愛媛大学）、官（松山市）から測量・GISに関する技術動向や地理空間情報を用いた最近の取組に関する報告をしていただき、活用事例や課題について意見交換を行った。

10月10日 国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）第11回総会及び第2回国連世界地理空間情報コンgres（UNWGIC）に出席

インド・ハイデラバードで開催された国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）第11回総会及び第2回国連世界地理空間情報コンgres（UNWGIC）に、国土地理院から大木参事官（UN-GGIM-AP 副会長）他3名が出席した。UN-GGIM-AP 総会では、理事会メンバーの改選が行われ大木参事官が引き続き副会長を務めることが決定したほか、既存のWGの継続に加え新たに統合地理空間情報枠組（IGIF）作業部会（WG4）を新設することが決定した。

11月10日 令和4年度国土交通省国土技術研究会に参加

国土交通本省において、令和4年度国土交通省国土技術研究会が開催された。国土地理院から自由課題（一般部門：安全・安心）1課題、自由課題（イノベーション部門）1課題の発表を行った。

11月13日 令和4年度大規模津波防災総合訓練でパネル展示

四国地方測量部は令和4年度大規模津波防災総合訓練において、国土地理院の防災への取組、東日本大震災直後の国土地理院の対応、自然災害伝承碑の取組を紹介するパネル、高知市や南国市中心

部のデジタル標高地形図、南海トラフを含む四国地方の陰影段彩余色立体図などを展示し、来場者への説明を行った。また、電子基準点が捉えた地殻変動、地理院地図をパソコンに表示して紹介した。

11月20日 阿波市防災フェスタ2022でパネル展示

四国地方測量部は阿波市防災フェスタ2022において、自然災害伝承碑や浸水推定図、阿波市のデジタル標高地形図、地理院地図などのパネル及び南海トラフを含む四国地方の陰影段彩余色立体図の床展示を行い、大勢の方に見学頂いた。

11月25日 第237回地震予知連絡会を開催

国土地理院関東地方測量部において第237回地震予知連絡会がWeb会議併用形式にて開催された。全国の地震活動、地殻変動等のモニタリング、地殻活動の予測についての報告が行われ、その後、重点検討課題として「内陸地震の長期予測」に関する報告・議論が行われた。

11月28日 令和4年度地理空間情報産学官中国地区連携協議会を開催

中国地方測量部は、令和4年度地理空間情報産学官中国地区連携協議会をWeb開催し、中国地区における地理空間情報の整備状況と活用を促進するための施策等について報告及び意見交換を行った。

11月29日 「第23回いばらき児童生徒地図～12月11日 作品展」を開催

関東地方測量部は、いばらき児童生徒地図研究会の事務局として、身のまわりの環境や地域、地図に対する関心を深めてもらうことを目的に、茨城県内の小・中学生を対象として「第23回いばらき児童生徒地図作品展」を開催した。作品展では、応募作品464点のうち優秀な作品47点を展示した。

11月30日 令和5年測量士・測量士補試験の実施日程等を公表

令和5年測量士・測量士補試験を5月21日に実施することを公表した。

12月1日 G空間EXPO2022が開催(会場～12月25日 開催及びオンライン開催)

G空間EXPO2022が、12月6日から7日に東京都立産業貿易センター浜松町館(東京都港区)で会場開催、12月1日から25日にG空間EXPO公式サイト(<https://www.g-expo.jp/>)でオンライン開催された。本EXPOは、地理空間情報を活用した新

たな技術やサービス、産業の創出の取組を紹介し、G空間情報への理解を深めることを目的として、国土地理院を含む産学官の連携で開催するもので、会場開催2日間で1,424名の入場者、オンライン開催25日間で38,935名の訪問者があった。国土地理院は、地理空間情報フォーラムで業務や技術を紹介するブースを出展したほか、Geoアクティビティコンテスト及び地理院地図パートナーネットワーク会議を主催した。

12月2日 令和4年度地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議(石川県分科会)

北陸地方測量部は、「令和4年度地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議(石川県分科会)」をオンラインで開催した。石川県以外の委員で参加を希望される方及び委員以外に石川県内の4つの市町からも参加いただいた。国土地理院から「地理院地図」の最新の開発状況についての説明、外部機関から地理空間情報に関する取組・活用事例について講演がされた。また、講演に対する質疑応答や点群データの利活用などの課題について意見交換がされた。

12月5日 第55回ISO/TC211総会に出席～12月9日

スウェーデン・ストックホルム及びWeb会議の併用(ハイブリッド形式)で開催された国際標準化機構の地理情報専門委員会(ISO/TC211)第55回総会に、国土地理院から日本代表団として笹川情報システム課長他2名がオンラインで出席した。

12月8日 令和4年度地理空間情報の活用に関する高知地域連携協議会を開催

四国地方測量部は、「地理空間情報活用の新たな展開」をテーマに、産(高知県測量設計業協会)、学(高知大学及び高知工科大学)から測量・GISに関する技術動向や地理空間情報を用いた最近の取組に関する報告をしていただき、活用事例や課題について意見交換を行った。

12月12日 電子基準点リアルタイム解析システム(REGARD)情報の提供及び活用に関する国土地理院、東北大学及び東海旅客鉄道株式会社の産学官連携について

国土地理院、東北大学及び東海旅客鉄道株式会社の3者は、災害発生時のリアルタイム津波浸水被害予測の高精度化、津波への対応力の強化を目

的に、電子基準点リアルタイム解析システム（REGARD）による推定結果の提供及び活用に向けた産学官連携の協定を締結した。

12月19日 令和4年10月1日時点の全国都道府県市区町村別の面積を公表

日本の国土の面積をとりまとめた「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」（10月1日時点）を公表した。

12月23日 令和5年度予算の政府案が決定

令和5年度予算の政府案が閣議で決定され、国土地理院関係の予算案額は、総額86.7億円となった。